動画週刊誌「週刊西田」　西田昌司がズバッと答える一問一答

「都議会のヤジ問題について先生はどう思われますか？」

●山本哲也さんからの質問

都議会でのヤジが問題となっています。私は少々騒ぎ過ぎなのではとも思うのですが、確かにヤジは質問者にとって妨害、迷惑に感じるのも事実だと思います。西田先生はヤジを得意とされていると勝手に存じておりますが(笑)、いっその事ヤジを禁止にしては？と言う意見もあります。西田先生は議会や委員会等でのヤジについてどう思われますか？御見解をお聞かせ頂ければ幸いです。

●西田昌司の答え

都議会のヤジがニュースになってから、いくつかのマスコミから「ヤジ将軍と呼ばれる西田さんは、今回の件についてどうお考えですか」といった内容の取材を受けました。都議会でのヤジについては、どのような状況の中で出たのかよくわかりませんが、ヤジについての一般的な考えを述べたいと思います。

私は、ヤジは「寸鉄人を刺す」ために必要だと思っています。議会は議論をする場ですが、原稿を棒読みするだけの議員も結構いますし、そのような議員の質疑・答弁には全く緊張感がありません。そのような時に厳しいヤジが飛ばされることにより、議場に緊張感が漲ります。ヤジはだらけた、冗長な質疑・答弁に気合を入れてまともな議論に引き戻す大事な道具です。しかし、どのようなヤジでも許されるというわけではありません。

私は平成 19 年の参議院選挙で参議院議員になりました。この選挙で民主党は参議院で第 1 党となり、次の衆議院選挙で過半数を占めれば民主党の天下だ、といった状況でした。第 1 次安倍内閣の末期でしたが、安倍総理の施

政方針演説中の民主党議員のヤジは常軌を逸しており、安倍総理の声が全く聞こえない程でした。国会議員１年生であった私はヤジも飛ばさずに、飛ばされるヤジを呆然と聞いていましたが、「そうか君たち、そこまでやるんだね。それでは我々が野党になったら徹底的に仕返ししてやるからね」と心に誓ったのでした。その後、自民党は本当に野党に転落してしまいましたが、私は誓いを忠実に実行しました。

民主党政権は、無責任の一言に尽きる政権でした。国会での野党の質疑に対してまともな答弁が返ってこないこともしょっちゅうでしたが、そのような時に私は「いい加減にしろ」とヤジを飛ばしていました。私のヤジは長く、文章的なのが特徴で、それを相手にグサッと刺すのですが、都議会で問題になった類のヤジを飛ばしたことはありません。下手なヤジを飛ばせば命取りにもなってしまいますが、私は真面目に、体を張ってヤジを飛ばしていますので問題になったことはありません。

議論をしっかりと聞いていないと上手いヤジも飛ばせませんし、パフォーマンスでヤジを飛ばせば失言にもつながってしまいます。私は自民党議員に対してもおかしいものはおかしいとヤジりますので、他政党の議員は「西田のヤジはパフォーマンスではなく、信念を持ってヤジっているんだな」と感じていると思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 http://www.shukannishida.jp